

所長	G長	課僚

会 議 報 告 書

【報告者 産業部林業振興課 枝窪主人】

起案	令和5年5月16日(火)	部長	次長	課長	補佐	G長	課僚	起案
	報告書							

議題

令和5年度サイト座談会

日 時：令和5年5月16日(火) 16:00～17:00

場 所：天竜林業会館2階会議室

参加者：24名(別紙名簿のとおり)

浜松市：小林課長、藤江補佐、大平副主幹、枝窪

1 概 要

○ 天竜林材業振興協議会の令和5年第1回総会後に、各サイト関係者と座談会を実施。主な意見等は次の通り。

春野／創出するカーボンクレジットは市内企業に購入(市内循環)してもらい仕組み作りにはどうか。

引佐／森林を手放したがっている所有者は多い。カーボンクレジットにより所有者に森林を持ち続けてもらえるように事業を進めて欲しい

佐久間／FSC材を使うことのメリット(補助制度等)を広報誌やチラシを活用して、浜松市から広くPRしてほしい。

2 内 容(主な意見)

天 竜) 市場を見るとFSC材が当たり前になっただとを感じる。

県森連) 市場で扱っている7、8割はFSC材。SDGsやカーボンニュートラルが広まり、今後さらにFSCの認知度はさらに高まっていくと予想。今後もうまくFSC材が回っていくように協力していきたい。

春 野) カーボンニュートラルに対して、森林林業がどのようにコミットしていくのかを考えていく必要がある。浜松市の削減目標もあるので、創出するカーボンクレジットは市内企業に購入(市内循環)してもらい仕組み作りにはどうか。

市役所) カーボンニュートラルは今まで製造業を中心に発展した浜松市において、森林が脚光を浴びる初めての機会となる。

市内の方には浜松市の森林に目を向けていただく機会であり、これをフックに天竜材をより使っていただくチャンスとなる。今後、各森林組合にも協力いただき、事業スキームを作っていく。

春 野) 林齢平準化のため、皆伐再造林を進めているが、それによってカーボンクレジットは減少してしまうのか。

裏面へ→

市役所) Jクレジットであれば皆伐した森林も創出対象とすることが出来る。クレジット創出のために今の施業方法を変えるのではなく、従来通りの施業のまま創出していくことを優先していく。

引 佐) 現在は森林の価値が低いため、手放しがっている所有者は多い。
クレジット化により森林がお金になるということを所有者に認識いただき、森林を持ち続けてもらえるように事業を進めて欲しい。

市役所) クレジット創出は森林を持っているだけではなく、施業が必要になる。森林林業がより良くなるようなカーボンクレジットの活用方法を検討し、皆様に共有していきたい。

佐久間) FSC 材を使うことのメリット(補助制度等)を広報誌やチラシを活用して、浜松市から広く PR してほしい。

引 佐) 引佐は大規模森林所有者が少ない、カーボンクレジット創出は小さい森林を対象とすることはできないのか？

市役所) 小さい単位だと、モニタリング等の作業コストが増えてしまう。

引 佐) 現状、残っている山は利用間伐がやりにくい山である。間伐により経済林(金になる山)を熟成するため、利用間伐の補助や保育間伐の無償化等、バックアップを検討してほしい。

林齢は高いが木材生産に向かない山へのアプローチが足りないように感じる。浜松市全体で価値のある山を増やしていく必要があるのではないか。

市役所) 今まで施業していなかった山に対して、どこまで補助していくのかは難しい問題。森林施業に適した山とそうでない山をゾーニングして分けていく必要がある。

3 備 考

FSC 認証林を増やしていくことも重要だが、効果的な PR を行い、FSC 認証材が活用される機会を増やしていくことも重要と思料。また、今後は当協議会にてカーボンクレジットの取組を検討している。更なる森林価値の創出に寄与するため、相互の連携を取り、事業を進めていく。

令和5年度サイト座談会の様子

日 時：令和5年5月16日（火）16:00～17:00

場 所：天竜林業会館2階会議室

